

報告 1

ペンギンスキー倶楽部の総会に参加

新潟市の友好都市ハルビンにあるペンギンスキー倶楽部の総会が4月12日の午後、市内の飛瀧国際商務酒店の宴会場で開かれました。

当スキー倶楽部は1991年設立し、会員は千数百人という歴史あるスキー愛好家の団体です。年に一度の総会に今年も招かれ、参加しました。

劉崑会長のあいさつ、会員の子供による踊りで総会が始まり、その後は抽選会と来賓のあいさつ、PR が交互に行われ会場は華やいだ雰囲気。スキーウェア、Tシャツ、日本酒等が協賛団体などにより景品として提供され、この日一番の注目を浴びたのはマウンテンバイクの抽選の時でした。また途中、今年発足した倶楽部の舞踊団が日ごろの練習の成果を披露しました。

ペンギンスキー倶楽部は今シーズンも韓国、イラン、カナダなどへツアーを組み、海外でのスキーを楽しみました。2月には新潟県と山形県内のスキー場に20数名が来ています。

総会に招かれた新潟県、山形県、新潟市の在中国駐在員からそれぞれ観光やスキーのPRが行われましたが、今年初めてカナダのアルバータ州旅游局関係者が北京から参加し映像などでスキーや当地の観光資源を紹介、雄大な風景の中で滑るスキーやスノーボードに多くの人が見入っていました。ペンギンスキー倶楽部の活動も年々広がっていることを感じます。

年1、2回は海外でスキーを楽しむという牡丹江から参加した会員は、今月中旬にオープンする山形県の月山スキー場に関心を示し、早速山形県ハルビン事務所長に問合せをしていました。ハルビン市内の旅行社総経理は時差の影響がほとんどない日本でのスキーや観光を評価するとともに、両地域間の一層の往来促進に期待していました。

新潟-ハルビン線を利用し、スキーに限らず多くの分野で交流が深まることを願って、会場を後にしました。(近藤)



倶楽部舞踊団のアトラクション



カナダ アルバータ州を紹介する楊さん

報告 2

「トキと銘茶の里を訪ねるエコツアー」に参加

4月19日から20日の二日間、JICAが主催する「トキと銘茶の里を訪ねるエコツアー」に参加しました。

このツアーは JICA と中国国家林業局が 2010 年より実施している「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」の現地視察とトキの取り組みをしている地域への経済効果を狙った旅行商品造成に向けた意見収集のために実施されたモデルツアーです。

「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」は陝西省（せんせいしょう）洋県（ようけん）および寧陝県（ねいせんけん）、河南省羅山県（らざんけん）を対象に、人とトキの共生に向けた環境が整備されることを目標として 2010 年 9 月に開始されました。今回は河南省信陽市羅山県を視察しました。

初日は北京西駅より高速鉄道で河南省信陽市まで移動し、昼食後すぐに自然保護区にある朱鷺の飼育場を見学しました。放鳥前に自然環境に慣れさせるための順化ケージが設置してあり、昨年 34 羽を初放鳥し、現在 15 羽の生息が確認されています。なお、今回順化ケージを見学している時に、昨年放鳥された 2 羽の朱鷺が空を飛ぶ姿を見ることができました。

翌日はお茶摘み体験とお茶の栽培をしている合作社の訪問です。信陽市はそもそも信陽毛尖（しんようもうせん）（中国十大銘茶の一つ）というお茶で有名な地域です。そのお茶栽培にさらにトキと共生している無農薬栽培のお茶というブランドイメージを加え、付加価値の高いお茶づくりをしています。細い針のような新芽だけを手で摘んでいくのですが、素人 10 名が 1 時間かけても 100 g 分のお茶も摘むことができませんでした。当地のお茶が高級なのも頷けます。

プロジェクト関係者が「トキは日中友好の象徴的な存在」だと話をされていたのが印象的でした。今年度も北京事務所として大学の日本語学科の学生に対しても新潟紹介を行います。その際にも今回視察したトキプロジェクトと新潟の朱鷺について話し、新潟をより身近に感じてもらえるよう、新潟と中国との係りを伝えていきます。（畑）



昨年放鳥された 2 羽の朱鷺



順化ケージ内の朱鷺

報告 3

ハルビン市へハルビン・新潟友誼園の技術指導団を派遣

哈爾濱・新潟友誼園の補修を行うため、4 月 23 日～27 日にかけて新潟市より技術指導団が哈爾濱市に派遣されました。そもそもこの友誼園、1989 年に新潟市と哈爾濱市の友好都市提携 10 周年を記念して、新潟市の協力の下ハルビン市内の太陽島風景区（※）内に造られた日本庭園です。庭園内には日本家屋（中日友好記念館）も 1 棟建てられました。竣工後は 5 年ごとに新潟市から技術団を送り、太陽島風景区のスタッフに対して造園、建築分野の補修や維持管理に関する技術指導を行ってきました。今回は公園水辺課の桑原補佐を団長に、建築、造園のプロが 2 名ずつ参加、国際課と北京事務所職員を含め、8 名で団を構成しました。

日本の建築、造園技術の指導を受けるため、総勢 20 名を超える現地スタッフが参加し熱心に日本から来た技術者の指導を受けていました。参加して下さった技術者の方々と太

陽島風景区のスタッフ達の熱意によって、今回の補修および技術指導という目的は達成することができました。

さて、この哈爾浜・新潟友誼園、年間 300 万人以上が訪れる太陽島風景区のツーリストマップには「中日友誼園」と紹介されています。まさに先人たちが築き上げた日中友好のシンボルと言えるのではないのでしょうか。今回の団に加われたことを嬉しく思うとともに、当技術指導団派遣は両国関係に関わらず今後も新潟市が続けていくべき活動だと確信しました。

※太陽島風景区とは・・・国家旅游局が定める国家 5A 級（最高位）旅游景区。年間 300 万人以上が訪れる黒龍江省随一の観光地。哈爾浜冰雪祭り（世界三大雪まつりの一つ）の会場にもなっている。（畑）



友誼園補修チーム一同

先般 2014 年第 1 四半期の GDP 成長率が発表された。対前年同期比 +7.4%であった。この数字をどう見るか、国際社会では議論になっている。厳しい見方は、中国経済の減速傾向は止まらず、再浮揚は難しいという見方だ。根拠としては、① 7.4%という数字は、政府が設定した通年成長率 7.5%を下回り、四半期の数字としては過去最低（唯一 2012 年第 3 四半期が同じく +7.4%だった）で、減速傾向は止まっていない。②「シャドーバンキング」など不健全な金融システムが蔓延し、地方政府の債務が膨張し、経済全体を圧迫しているが、この問題の処理は長くかかるだろう。③消費が不十分であり、依然として輸出に頼る「外需型成長」モデルから脱していない。④経済の構造改革は緒に就いたばかりで、成功するにしてもかなりの時間がかかる。この過程で、成長率は引き続き鈍化するであろう。⑤世界経済はなお不透明で、外需が一気に回復する見通しが無い。⑥米中関係、日中関係の悪化という政治的要素が中国経済の発展を妨げるだろう。この状況は短期間には解決できない。その上、中国と ASEAN の関係もギクシャクしてきた。などである。

中国国内でも議論があるが、悲観論は少ない。年初には経済を下支えし、落ち込みを防ぐため、政府は財政出動を含む臨時措置をとるのではないかという観測があった。しかし李克強首相は、4月に海南島で開かれた「ボアオ・アジア経済フォーラム」で演説し、「短期的な刺激策はとらない」と明言した。そして、7.4%は「想定内」で、「通年の目標が +7.5%というのは、若干上回る可能性も、若干下回る可能性もあるということだ」と

述べた。李克強首相の心配は、数字より雇用状況のようで、「数字より、基本的な雇用確保が重要だ。今年は最低1000万人の雇用確保が必要だ」と述べた。昨年度は7.7%成長で1300万人の雇用が実現した。政府の試算では1000万人の雇用を確保するためには7.2%の成長が必要となる。その意味で、7.4%はまあまあの数字なのである。もちろんこの数字は第

【筆者プロフィール】

西園寺 一晃(さいおんじ かずてる)氏

1944年生まれ

- 明治の元勲・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。
- 西園寺公一(きんかず)氏(第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事)の長男。
- 北京大学経済学部卒業
- 朝日新聞社に在籍中は、日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。
- 現在工学院大学客員教授、北京大学客員教授、伝媒大学客員教授、北京城市大学客員教授

1四半期のもので、通年の数字はどうなるかはまだわからない。さらに李克強首相は、一部の金融機関の「理財商品」にデフォルト(債務不履行)問題が発生したことに関して、政府は救済しないと声明した。これは、金融機関の安定化を維持するため、政府は救済するのではないかという観測に対して述べたもので、一部の金融商品に問題が生じ、デフォルト問題が生じるのはどこにでもあることで、政府が救済することはあり得ず、市場原理に任せると述べた。

李克強首相の頭にあるのは、経済の個々の綻びを補修することではなく、経済全体の構造改革をいかに進めるかである。そのためには相応の痛みを伴うのはやむを得ないということだろう。ただ、経済の綻びが経済全体を崩壊させては元も子もない。従って、政府は「短期的な刺激策」はとらないが、刺激策を全くとらないわけではない。あくまで将来を見据え、経済全体の構造改革を行うという既定方針の中で対策を講じるという意味だろう。これには既定の計画の前倒し実施も含まれる。例えば、①内陸部の都市化と並行して、鉄道整備を一部前倒しで加速する。②老朽化した住宅の整備・建設と低所得者向け住宅の建設。③零細・中小企業を対象とした法人税の大幅減税、などである。

李克強首相の経済政策は「リコノミクス」と呼ばれるが、このリコノミクスの中核を成すのは「内陸部の都市化」である。今年3月に「都市化計画」が発表された。それによると、2013年末の都市化率(都市人口の比率)は53.7%だが、2020年にはこれを60%まで高める。都市化とは、内陸部農村地帯に数多くの中小都市を建設し、農村の過剰人口を吸収し、中小の工業、サービス業を興す。この中小都市間を高速道路と鉄道(普通、高速)で結び、経済効果を生み出し、内陸部住民の所得向上を実現し、内需を掘り起こすというものだ。鉄道について言えば、新興都市の中で、人口20万以上の都市には通常鉄道を通し、50万以上の都市には高速鉄道を通す。市内には地下鉄を作る。この計画を実現するためには、「二重戸籍」問題を解決しなければならないが、戸籍改革はすでに着手されている。新興の中小都市に移住した農民には「都市戸籍」を与える、就業の機会を与える、都市住民と同じ福祉を与える、子弟の教育問題を解決するなどだ。

この都市化計画がうまく行けば、大量の新しい労働力が生まれ、内陸部に多くの産業(第2次産業、第3次産業)と雇用が創出される。それは莫大な内需を生むことになる。沿海ベルト地帯に比べれば、まだ安い労働力が存在する内陸部には、依然として製造業をはじめとする外資を導入する条件がある。政府はこれまでのような労働集約型の外資系製造業を、沿海ベルト地帯に導入することはもう考えていない。賃金が上昇し、メリットが無くなった外資系製造業は出て行っても良いと考えている。中国にとどまるなら、内陸部への移転を勧めることになる。いずれにせよ内陸部の都市化は、経済全体の構造改革のカギとなる最重要課題なのである。

しかし問題はそう簡単ではない。中国のような大きな、したがって経済発展が地域によって不均衡な国は、往々にして「こちらを立てれば、あちらが立たない」という現象が生

まれる。内陸部農村の都市化は、確かに内陸部の発展、内需の掘り起しには大きな効果が生まれるだろう。しかし、その一方で開発による環境と生態系の破壊問題はどうか。さらに農村地帯の都市化により農業はどうか。急激な開発と都市化により、耕地面積の縮小は避けられない。そうなれば食糧生産が影響を受けるのは必至だ。中国のような人口大国は、食糧を輸入に頼ることはできない。一定の耕地面積を維持し、食糧の基本的な自給体制を維持した上で、内陸部農村の都市化を進めることは至上命令である。リコノミクスは、内陸部における環境問題と農業問題に具体的方向性を示さなければならない。

北京スタッフ便り

北京の高齢化状況と高齢者の定年生活の楽しみ方

週末に公園を散策するのが暮らしに欠かせないことになっています。しかし、公園に行くたびに、北京の高齢者がますます増えていると実感します。

北京市の高齢化問題がどこまで進んでいるかという点、北京市老齡工作委员会が2013年9月25日付で発表した「北京市 2012 年老年人口情報と老齡事業發展狀況の報告」を見ればわかります。当該報告によると、2012 年末までに、北京市の戸籍人口数は1297.5万人、うち60歳以上の高齢者人口が262.9万人、全体の20.3%を占め、80歳以上の高齢者人口が42.6万人、全体の3.3%を占めます。男性が126.4万人、女性が136.5万人、それぞれ高齢者人口の48.1%、51.9%を占めます。普通、65歳以上の人口を高齢者、15~64歳の人口を労働力人口、高齢化率7%~14%を高齢化社会、14%~21%を高齢社会、21%以上を超高齢社会とされますが、中国は一般的に60歳以上の人口を高齢者人口、15~59歳の人口を労働力人口とします。そうすると、北京市の高齢化率はこれで初めて20%を超え、高齢者扶養率（高齢者人口数/労働力人口数×100%）は29.4%に達し、一人の高齢者が3人の現役世代に支えられていると言えます。また、当該報告では、2040年、北京市の高齢者人口が560万人に推移すると予測しています。



えられていると言えます。また、当該報告では、2040年、北京市の高齢者人口が560万人に推移すると予測しています。

人口の急激な増加に歯止めをかけるために1970年代末頃から実施されてきた「一人っ子政策」は特に都市部で4・2・1（高齢者4人・夫婦2人・子供1人）という家庭構造の形成を加速させました。共稼ぎに基づいて築かれてきた中国では、都市部の定年退職者の扶養に必要な場所、資金、介護はそれぞれ主に自宅、年金、子供に頼っています。したがって、定年後の高齢者は共働きの子供の代わりに孫の面倒を見るほか、自分の健康を保つのが一大要務になっています。

もちろん、急速な高齢化に伴い、高齢者に対する医療保障、扶養、介護福祉等は直面せざるをえない問題ですが、生活や医療水準の向上によって、平均寿命が伸び健康状況が改善されつつあるため、定年退職になった多くの高齢者はまだまだ元気で、ひいては定年後の生活を人生第二のステージとしてこれまで余裕がなくてできなかった夢を実現させようと楽しんでいます。

参加人数が最も多くて人気のある運動は中国北から南まで、都市から田舎までを風靡する広場ダンスと言っても間違いありません。場所にあまり制限されず空地と音楽があれば誰でも参加できます。黒龍江省佳木斯市の定年退職者于さんにより 2008 年に発明され、定年になった自分の体を鍛えるのがそのきっかけだったそうです。また、朝晩の公園には、ジョギング、社交ダンス、民族舞踊、太極拳、卓球をやる高齢者も多いです。運動は毎日の仕事みたいにやらなければならないこととしたら、将棋、囲碁、楽器や歌唱の稽古は気立てをより良くさせる楽しみです。中国人は比較的に単独行動が嫌い、自分の才能を人前で表すのが平気で人数の多い活動が好きです。それに、高齢者にとって



遊びの仲間がいると、安全の面や情報交換の面においてもよいことなので、仲間に入るのが速いです。

毎週土曜日、家の近くの公園でアコーディオンを弾くおじさんがいます。定年退職後、家に引きこもるのがつまらなくて、卓球を練習してみたが、体が堪えられなく、次に声楽を習ってみたが、生まれつき向いていないと先生に言われたそうです。それでアコーディオンを選んで、2年間一生懸命練習して今は自由に曲を弾くようになったとのこと。せめて趣味を一つくらい持ったほうが人生、特に定年後の生活を多彩に送れると自信と満足の笑顔で語ってくれました。



自分に向いていることを見つけるまで時間がかかるかもしれないので、定年になってから探し始めるより今のうちから探すのはよいことと思います。(鞠)

ニュースタッフ自己紹介

新潟市北京事務所
副所長 畑友教

2010年に上海万博に行った際に中国のエネルギーに圧倒され、以来北京事務所での勤務を希望してきました。念願が叶い今年4月1日から赴任しています。

赴任して2か月が経ちますが、1年間カナダのエドモントンへ留学していたことがあり、2度目の海外生活となるためすぐに北京の生活には馴染みました。北京は新潟と同じように坂が少なく、自転車は移動手段として有効です。空気は報道の通りよくはありませんが、私も北京市民に負けまいと自転車を買って、通勤に利用し、週末はまちめぐりを楽しんでいます。

仕事では北京事務所設立からこれまでの7年間の活動のおかげで様々な方から提案や問い合わせを受けることが多く、慌ただしく時間が過ぎていきます。

これから新潟と中国の経済、文化など各種交流を前に進めていくために全力投球していきたいと思います。



新潟市北京事務所

職員 霍宜娜 (かく きな)

2014年5月1日に新潟市北京事務所に入所しました。

左は畑、右は霍

大学時代に、日本語を専門として勉強しました。これからは身に付けた日本語と仕事の経験を活かして、中国と新潟市及び日本の架け橋になって、中日友好交流を促進するため少しでもお役に立てれば、うれしく思います。

意外な幸せに感謝の気持ちを込めて、頑張っていくと思います。

■ ■ お知らせ ■ ■

「ビジネス支援サービス」をご活用ください。

新潟市の中小企業、団体等が北京市内で経済活動を行うに当たり、様々な支援を行っています。お気軽にお問い合わせください。

詳しくはこちらから

http://city.niigata.org.cn/business_support_service.htm